

世界のブルーベリー新興輸出国の見通し

EastFruit 2025年4月21日

EastFruitチームは、世界のブルーベリー市場の分析を続けている。世界のブルーベリーの一般的な傾向と、ペリーとチリの2つの巨大輸出国の状況に続き、我々は、小規模に見えるかもしれないが、実際には世界の供給マップを書き換えつつある、精力的な新興輸出国について調査することとした。

これらの「精力的な新興輸出国」は、数年前にはブルーベリー産業が極めて小さかったが、現在では多額の投資を行って指数関数的に成長している国であることが多い。特に、**コロンビア**、**ジョージア**(旧呼称グルジア)、**ウクライナ**及び**ジンバブエ**は、2025年から2030年の間に既存の輸出国に挑戦する準備が整っている有望株として際立っている。

コロンビア: コロンビアのブルーベリー産業は、初期の段階にあるものの極めて急速に拡大している。2024年現在、コロンビアは330万ドルに相当する約628トンの生鮮ブルーベリーしか輸出していない。しかし、栽培面積は急増している。コロンビア農業計画ユニット(UPRA(農業農村開発省の技術的附属機関))は、現在では約650ヘクタールのブルーベリー栽培面積が2026年までに669%増加し、3千〜5千ヘクタールに達する可能性があると推定している。コロンビアは、ブルーベリー市場でペリーの足跡をたどっている。その独特の赤道気候のおかげでコロンビアはブルーベリーを一年中生産することができ、これは北半球と南半球の両方でシーズンオフの市場に供給できる戦略的な優位性となっている。

コロンビア産ブルーベリーは既に米国、ヨーロッパ、アジアに一年を通してアクセスがあり、生産者は実績を上げるため品質を重視している。同国の生産量は、今後数年間で急激に増加すると予想されている。その予測が実現すれば、コロンビアは2030年までに数万トンを生産し、それらのベリーの大部分を輸出し、中南米における主要な供給国の一つとなる可能性がある。政府と業界は、ブルーベリーを有望な非伝統的輸出作物と見なしており、この成長を積極的に支援している。

ジョージアは、その良好な気候と投資を活用して、東ヨーロッパで急成長中のブルーベリー輸出国となった。ジョージアのブルーベリー輸出量が2023年に2.5倍に急増して約2千トンに達したことで、同国は世界のトップ20のブルーベリー輸出国としてデビューすることとなった。わずか5年前にはジョージアは数百トンしか輸出していなかった。2019年から2023年までの年平均成長率は、55%という驚くべき数字であった。絶対量はまだまだ多くないが、ジョージアの傾向線は急上昇を示しており、EastFruitによると同国は輸出量を毎年平均約700トン増やしている。輸出量でイタリアやニュージーランド、さらにはオーストラリアといった国々を上回り、ジョージアはその可能性を証明した。

ジョージアのブルーベリーは初夏、時には5月末に成熟する。業界はオランダやポーランドの苗木業者とのパートナーシップ等により、国外からの投資や専門知識の恩恵を得ている。この成長が続けば、ジョージアの輸出量は2020年代後半までに5千〜6千トン以上に達し、さらに順位を上げる可能性がある。また、中東、EU等の価値の高い市場に近く、DCFTA(EUとの貿易協定)があることでも、物流上有利である。

ウクライナ: 2022年からの戦争と経済の混乱という大きな課題に直面しているにもかかわらず、ウクライナのブルーベリー産業は回復力と成長を示している。ウクライナは2020年以前に既に新興の輸出国であった。驚くべきことに、ロシアの侵攻にもかかわらず2022年と2023年には輸出が急激に加速した。ウクライナの輸出は、2019年から2023年までの期間に年率約21%(平均して毎年約530トン)で増加した。EastFruitの業界分析によると、2022年には輸出が1,100トン以上、2023年にはさらに940トン以上急増した。

ウクライナのブルーベリー栽培は、比較的安全な西部と中央部で拡大し、ウクライナ産ベリーのほとんどは貿易特惠の下でEU市場に販路を見出している。今後数年のうちに安定が回復すれば、ウクライナは主要生産国となるために必要な土地、気候、知識を備えており、長期的にはポーランドに匹敵するほどである。特に戦後の復興が農業を後押しすれば、ウクライナは2030年までにヨーロッパの主要な輸出国として浮上する可能性がある。

ジンバブエ: おそらく最も驚くべき新興輸出国は、急速にアフリカのブルーベリー輸出のサクセスストーリーとなったジンバブエであろう。5年前には事実上存在しなかったジンバブエのブルーベリー輸出は、現在、世界の輸出国の中で概ね13位にランクされている。実際、ジンバブエは2022年の輸出成長率で世界をリードし、過去5年間の平均でも輸出の成長は年率48%に達した。ジンバブエは毎年、前年に比べて平均1,300トン輸出を増やしている。

この爆発的な成長は、ジンバブエの出荷時期の早さを活用するために同国に農場を設置した多国籍ベリー企業からの投資によって推進されている。南アフリカよりも早く収穫が始まるのが、ジンバブエにとっての有利性である。ジンバブエの気候では、ちょうど北半球の出荷が終わり、南半球の他の供給国がピークを迎える前に市場に出荷することができ、これは非常に有利である。継続的な成長により、ジンバブエは輸出ランキングで上昇を続けると予測されており、現在の傾向が持続する場合、数年以内に輸出量でトップ10に入る可能性が高い。ジンバブエが2020年代の後半までに1万トン以上を輸出し、ブルーベリー貿易におけるアフリカの役割を強固なものにすることが予見できる。

モロッコは現在、輸出量で世界第5位に入っており、既に主要な輸出国である。ヨーロッパやその他の地域に供給し、着実に2桁の成長を遂げている。もはや「新興」ではないが、変化しつつある風景の一部である。

エジプトも新興輸出国で、多くの企業がブルーベリーの生産を試み、輸出を開始している。現在は少量だが、技術的な専門知識が向上するにつれて、その量は増えると予想される。実際、多くのブルーベリー市場参加者は、エジプトがイチゴの世界市場をどれほど素早く変化させたかを記憶しており、エジプトのブルーベリー市場への参入を非常に懸念している。

インドは国内でブルーベリーを栽培しており、中東や東南アジアに少量を輸出し始めているが、インドの輸出量は消費量に比べてまだ少量にとどまっている。また、**エクアドル**、**ケニア**等の国々もブルーベリーの輸出に参入し始めている。

全体的な傾向は明らかである。ブルーベリーの栽培は「グローバル化」しており、新たな生産国が供給の最もダイナミックな成長に貢献している。FAOのエコノミストであるアンドリー・ヤルマック氏は、「上位5カ国が最も注目されるが、最もダイナミックな成長は上位10カ国以外の国々で発生することが多く、今後数年のうちに新たな調達機会を提供するようになるだろう」と指摘している。

これらの新興輸出国は、グローバル市場にチャンスと課題の両方をもたらす。一方では、増大する需要に対応し、オフシーズンの果実の提供に役立つ新しい供給源を生み出す。例えば、コロンビアやジンバブエのような国からの通年供給が増えれば、輸入国の消費がさらに増加する可能性がある。一方、その急速な成長は、特に需要が同様の速さで拡大しない場合、供給過剰の懸念を悪化させ、価格に圧力をかける可能性がある。既存の輸出国は新たな競争に直面するだろう。例えば、南アフリカの生産者は、ジンバブエの台頭がシーズン序盤の優位性を浸食していると指摘し、ヨーロッパの生産者はウクライナとジョージアに注目している。結局のところ、これらの精力的な新興輸出国の参入は、拡大する供給量が確実に先行を見つけられるよう、世界的な需要の刺激と市場の開拓を継続することの重要性を浮き彫りにしている。